

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご利用者がなじみの生活を可能な限り続けられることを目指し、理念を構築している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のカンファレンス時に、皆で唱和している。理念を確認し、実践に取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	現在、ご家族や地域の人々に理解していただける取り組みをしていない。	<input type="radio"/> 理念がご家族に理解していただけるように、入居時や家族会の時に説明したい。また、来所者にも知っていただけるよう、掲示する等を検討したい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方とはあいさつを交わし、話す機会はある。気軽に立ち寄っていただけるものの、ホーム内でお茶を飲んでいただけるような付き合いはできていない。	<input type="radio"/> 気候の良いときは、気軽に立ち寄ってお茶を飲んでいただけるような雰囲気作りをしたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会の加入はしていない。地元の方とは、菊を持ってきてくださったり、畑をお手伝いすることで交流を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現時点では開所後2年程で、ホーム内の整備に取り組むことで精一杯である。	○	地域貢献できる事業所となるよう、職員会議や家族会を通じて話し合い取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を、項目の考え方の指針に沿って1項目ずつ考えることで、大変良い勉強となり、今後に活かして欲しいと伝えている。前年の評価結果を皆で読む機会を作り、グループホーム介護の重要点を皆で確認した。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容は報告書として職員も周知している。参加者からの助言や要望で必要な点は話し合い、サービス向上に役立っている。	○	推進会議に、役職職員以外も参加できるようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で問題提議したことについて、地域包括支援センター担当者が、後に情報を電話連絡を下さったり、サービスの質向上に協力してくださっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員ではないが、一部の職員は権利擁護事業や成年後見制度を理解し、必要と思われるご利用者にはご家族を通じて説明をしている。	○	全職員が制度を知ることができるよう勉強会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、全職員が知らない。	○	全職員が制度を知ることができるよう勉強会を持ちたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書に沿って、詳しく説明を行うと共に、契約書を熟読してサインしていただけるよう時間的にも猶予している。不安な事項は繰り返し説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族には常にご意見をいただけるよう、話しやすい場面作りをしている。また、年2回の家族会には、ご意見がいただけるよう時間を設けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の異動については年2回の家族会で報告している。個別の報告は、毎月始めに、前月の生活の様子として手紙を郵送すると共に、面会時にお話している。特に体調面で変化があった場合は受診前後の電話連絡を行い、家族の意向を確認している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には日頃から面会時にでもご意見をいただけるよう、話しやすい場面作りをしている。また、年2回の家族会には、ご意見がいただけるよう時間を設けており、いただいた意見は運営改善に反映している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案など、積極的に受け入れて、運営に取り入れている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯の職員確保ができるよう相談している。そのため、ユニットで30分、勤務時間の差を設けている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交替によってなじみの関係が断ち切られることは残念である。しかし、やむを得ない場合がほとんどで、知らぬ間に交替するのではなく、離職・入職いずれの場合にもご利用者にあいさつを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム外研修は、開所後2年程度のため、管理者や主任が行くことが多かった。ホーム内研修は、複雑な業務中でなかなかすまない状況で、研修と称して行うものは少なく、月1度の全体会議のときにリスクマネジメント等の研修を行った。	○ 職員の経験知識に応じ、県主催の研修から積極的に参加をすすめて行きたい。ホーム内の研修もすすめたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者と管理者間で交流する機会はあるが、職員間では、昨年近くのグループホームに見学に行き来したが、それ以外にはない。	○ 今後、近隣のグループホームと交流が持てるように働きかけたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が働きやすい環境となるように、勤務作成時にはなるべく希望を取り入れ余暇が充実するよう願っている。しかし、休憩室がないため、日勤の職務中に十分休めていない状況である。	○ 職務中の休憩について改善をはかりたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の実績や能力に応じて責任の範囲や仕事の依頼を決めるように心がけている。また、研修の受講を勧めている。	○ 研修の受講や経験・実績・能力を反映した職員体制が作れるよう、会社内で話し合いたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には、必ずご本人にお会いしてゆっくり話す機会を持っている。必要時には自宅へ訪問をし、その方の入居前の暮らしぶりを知るように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の不安や希望については、入居前によく聴く機会を作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族にお会いして、体調面も含めてホームで対応できることとできないことの見極めと説明を行っている。その上でホーム入所以外のサービス利用がよりよいと思われる場合には、他のサービス利用がしやすいように詳しく説明を行い、必要機関に連絡している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して入所できるように、入居の前に送迎して日中利用していただいたり、体験入所をおすすめしたり、その方に応じて対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	餅つきや干し大根作りなど、ご利用者がなじみ、得意なことを職員が教えて頂くことができる機会を設けている。また、ともに泣き、ともに笑うことで対等な立場で生活できるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の認知症の進行や、発言などで職員と家族が共に喜び、涙をすることもある。職員は、ご利用者の良かった点だけでなく認知の症状の進行などありのままを家族に知っていただくようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は、ご家族やご利用者双方の関係が円滑になるよう、事実を伝える中でも特に喜んでいただける事柄は、心に残るように職員も喜びをもって伝えている。ご利用者には「お嫁さんが心配して電話をくれましたよ」など。ご家族には「いつも良くてくれたと話してくださっています」など。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力をいただきながら、なじみの関係の継続に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士が共に楽しめるレクリエーションや行事を行っている。ご利用者同士の口論や、特定のご利用者への中傷などで、職員が対応に悩むこともある。	○	対応困難である場合は、職員カンファレンスやご家族に相談して解決に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院のために退所となった場合には、面会に行く等、なじみの関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者との普段のかかわりの中で、その方の要望を聴き、実現に向けて取り組んでいる。ご利用者があまり希望をおっしゃらない場合でも、職員間できよく話し、その方が喜んでくださるケアの提供に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートに記入しているが、職員によっては把握しきれていない。	○	ご家族の面会時に知りたい情報をお聴きして記録し、職員が必ず読んで共有していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご本人が、しない・しそうでないと決め付けず、できる事やできそうなことを見つけて参加を促している。	○	センター方式のシートを活用して、現時点でのできる事やわかることの把握に取り組んでいる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、ご本人に望む生活をお聴きし、ご家族にも意見をきいている。ご本人から具体的なご希望がない場合が多く、その方のお好きなこと、喜ばれることを職員間で話し、計画に入れるよう努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、おおむね3～6ヶ月で見直しを行っているが、入院などで状況に変化があった場合は期間前においても見直ししている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、ご本人の発言なども記載し、具体的に記載している。また、個別にケア目標を立てて実践し、毎月末に評価を行い、モニタリングすることで次の計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊時の送迎、入院中のご家族のお見舞いへの援助など、柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアは、散髪・三味線・お琴・菊の花づくり・阿波踊りの慰問など、出入りしていただき、生活の中での楽しみごとの一部になっている。	○	ご利用者が参加型のボランティアを探している。(家族会でご家族に呼びかけている)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前に支援していただいていたケアマネージャーとは、入居後も状況相談をすることがある。ホーム内だけでの支援にならないよう、希望時には外出をして美容室へいくなど支援している。以前は、病院のデイケアに週1回通っていた。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、1名のご利用者が権利擁護事業を受けている。利用にはいたらなかったが、必要に応じて、権利擁護の説明も行った。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみの継続として、かかりつけ医の受診を勧めている。三好郡内であれば、ホームの職員が受診に行くことも多く、相談しやすいよう医師との関係作りを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	基本的には、かかりつけ医により認知症の治療が行われている。進行して、更なる治療が必要となる場合、認知症外来が三好郡内にはないため近隣の精神病院の医師に相談している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	1名のご利用者には、入所前からの訪問看護ステーションの看護師が週3回訪問に来ており、相談している。その他の方は、ホームの看護師が支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、ご家族に了解を得て、ご利用者の状況を情報提供している。また、なるべく多く面会することで、安心感を持っていただけるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在まで、入院が長期化すると予測できた例が1例あり、ご家族と相談し、退所となった。あと、1例は、既往歴のため急変の可能性が高い方がおられ、その場合にどのような処置をするかご家族と話し合いを行った。その他、終末期を迎える事例がない。認知症状の重度化については、その都度話し合いをしている。	○	今後、終末期の介護についての勉強会を行いたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームで対応が困難なことについては、主治医に相談を行っている。以前、低血糖発作を繰り返すご利用者様がおられて、医師と相談のもと当ホームでは対処が困難と判断し、他のグループホームに転居した例がある。	○	以前は看護師1人が受診に同行することが多かったが、現在はホーム職員誰もが受診に行く機会がある。このことで、かかりつけ医や看護師と面識を持ち、日頃から相談しやすく、これからご利用者が年を重ね、重度化された場合でも、かかりつけ医療機関とチームとして認識してご利用者を支援できる関係作りを行いたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には、その前の生活の様子をなるべく詳しく話していただけるようにご家族に情報提供を依頼している。ホームから転居される際にも、施設等ではサマリーをお渡しして情報提供し、リロケーションダメージが最小となるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室への出入りの際の声かけをしている。他者に聞かれたくないであろう話をするときには、居室に案内して話す、声の大きさに注意する等配慮をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご自分で決定しかねる方には、決めやすく分かりやすい声かけを心がけている。意志表出がはっきりとなさらない方には、ご利用者の態度や反応を見て、こちらが無理強いすることのないよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく、ご利用者個々のペースになるように心がけている。起床時間や就寝時間、更衣の時間なども、職員のペースだけにとどまらず、ご本人のペースに合わせている。ただ、就寝準備など職員2人での介助が要する方は、人員配置の都合上、決まった時間となるため、ご家族にその旨を伝えて同意をいただいている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容は、ご本人が毛染めを希望する場合、好みの色を購入していただき、ホーム職員が染めている。カットはボランティアの方や、ご家族と美容室に行かれる方、ホーム職員と美容室に行かれる方様々であるが、ご希望に添えるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや配膳、片付けなど、ご利用者個々の状況に応じて共に行っている。退所された方だが、炒めなど、ほとんどの調理ができる方もおられたため、お願いしていた。できるものの、職員がすることが当然と思われる方もおり、台所に立つことを嫌われるが、リビングで豆の皮むき等して下さるときもある。餅つきのもちを丸める作業は普段なさらない方も手伝ってくださった。	○ ご利用者にとって、食は楽しみの大きな一部である。餅つきのように、楽しみながらできるおやつ作りなどを取り入れる機会を増やしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこを採られる方がおられるが、疾病のためご家族から禁止されている。以前は米食が主であったが、パン食のご希望があり、週1度はパン食の日をしている。	○ コーヒーや紅茶など、ご希望に添うよう提供したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗回数に応じておむつの使用を検討している。寒い冬場は回数が増える方が、夏場減るため、ご本人の気持ちよさや皮膚トラブル予防のためにもオムツをはずしていた。また、必要な方は時間排泄を行い、トイレで排泄することを大切にしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者の入浴の回数をご希望に添っている。ほぼ毎日入られる方もおられる。入浴が嫌いで、応じていただけない場合では、なるべくご本人の意思で入っていただけるよう工夫した声かけを行っている。また、清潔を保つ必要上ご家族に協力していただく場合もある。	○	入浴は週6日準備しているが、時間帯は午後と制限されている。ご利用者からの要望がある場合には時間帯は検討したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々に応じて、希望時には居室に戻り休まれる方や、リビングやこたつでうたた寝される方など、休息は自由に十分取れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の得意なことを行えるような支援をしている。男性ご利用者にペンキ塗りを頼んだり、長年畑をしてこられた方に植ええを、花作りが得意な方に園芸を頼んだりしており、気晴らしとなっているようだ。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	4人のご利用者が居室に現金を所持されているが、いずれの方もご家族と相談した結果である。1名の方は、ホーム管理者が管理しており、買い物時にはご本人に渡し、ご自分で支払いをしていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関を開けているため、ホーム敷地内は自由に散歩や布団干しや草抜きができる。敷地外の散歩や買い物の希望がある場合には、なるべく添えるように配慮している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	4月、全員でお花見に善通寺へお参りに行った。ずいぶん前より楽しみにしてくださった。11月は近くのうどん店で外食した。個別では、昔鮎つりをなさっていた方と、鮎つりを見に行ったり、気晴らしに受診の帰りに滝を見に行ったり支援した。また、ご家族が外食や懐かしい場所へ外出して下さっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望時には電話をかける支援をしている。また、年賀状を書く支援を、個々の有する力に応じて行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人の訪問時には、温かく歓迎し、お好きな場所で居心地よく過ごしていただけるよう配慮している。また、お茶やお茶請け等も提供している。ご家族には職員にも気軽に話しかけていただけるようゆったりとした対応を心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止については全職員が知っているものの、具体的な行為について認識に差があった。身体拘束倫理規定はあるが、周知できていなかった。現在の状況は、夜間ベット柵で四方を覆っている方が1名おられるが、ご家族のご希望であるため、拘束をしているという認識が薄く書面確認ができていない。	○	身体拘束倫理規定については、全体会議で周知したい。また、1件拘束を行っているため、早急に同意書の書面確認を行いたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は、鍵をかけることのご利用者の心理的な苦痛を理解している。玄関は日中7時～19時までは緊急時を除き施錠は行っていない。門扉は手動では開かない構造になっており、開放はしていないが、運営推進会議でも話し合った結果、前の道路の交通量が多く、安全配慮ではやむを得ない。	○	鍵を使用する場合でも、むやみに鍵をかけることは、さらにご利用者の心情を傷つけることを皆で話し合い、よく相談することを徹底したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、ご利用者を束縛することなく、自然に見守りができている。夜間は、2時間おきの巡視で安否確認を行うと共に、居室から起きてこられた時にすぐわかる位置で待機している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食行為が心配なときは職員間で話し合いをして物品の保管位置を配慮している。一律になくすと決めているわけではなく、ご利用者の状況に応じて話し合いをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット体験があった場合、気づき報告書を提出し、ヒヤリハット体験の共有を図り、再発防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の応急処置については、入職時と4ヶ月に一度全職員が読み、サインしている。急変や事故発生時の訓練が定期的にはできていない。	○	急変や事故発生時の訓練が定期的に行えるよう、計画する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難訓練は、夜間時間帯を想定して行ったが、実際に夜間おこなっていないため、非難時間や状況に大きく違いがあると思う。協力体制は近隣等にとれている。	○	火災以外の天災時の取り決めに早急に整備したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用者個々の起こりうるリスクについては、日常の面会時やケアプラン説明時に行っている。ホームとして判断に迷う場合においてもご家族に相談して、ご家族の意思を尊重しつつ、抑圧感のない方法を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、ご利用者の異常の変化があった場合は、速やかに看護師に報告して、対応している。必要に応じては受診を行いました、ご家族にも連絡を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員によって、理解度に差が見られる。	○	薬局からの薬剤提供書を1冊のファイルにして職員が必ず理解するよう改善した。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がご利用者の行動にも影響を及ぼすことを理解しており、排便状況を確認している。自然排便ができるように緩下剤の調整を行う、便意を察知してトイレ誘導を行う、水分摂取の支援をすることに努めており、現在ユニットの全てのご利用者様がトイレでの自然排便ができています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアが爽快感や清潔を保つ、肺炎を予防する等必要性を職員に周知している。ご利用者様に毎食後声かけを行っているが、拒否なさる場合がある。その場合でも、なるべく夕食後は口腔ケアや義歯の消毒・洗浄ができるように声かけに工夫をしている。	○	細菌繁殖は睡眠中に行われることが多く、睡眠中の唾液の誤嚥等から肺炎の原因になることもあるため、朝・昼もとより眠前の口腔ケアの徹底に努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取カロリー1500～1600カロリーで献立をたてている。男女別や活動量、疾患、体重等を考慮し、盛り付け量の調整をしている。季節感にあふれて旬の食材が味わえるよう、高齢者用の献立となっている。水分は、不足や過剰の心配がある際には水分チェックシートを使用して水分量の把握をし、必要な水分量の提供に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがある。インフルエンザワクチン接種は、医師に止められた方以外は接種している。職員も、ほぼ全員が接種をおこなった。受診時にはマスクを着用し感染予防に努めている。ノロウイルスは、保健所の講習会に参加し、予防と対応についてホーム内で話し合い、万一発生した場合の処理バケツを準備し、感染拡大防止対策をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、一度解凍したものは、再び冷凍することを禁止し安全な食材の提供に努めている。調理器具やふきんは毎日塩素系洗剤で消毒を行っている。また、職員は手洗いの方法を学び、生で食するものはナイロン手袋を使用するなど、調理者からの食中毒の発生防止にも努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉が開まっているため、親しみやすく出入りができる状況とはいえないが、チャイムの対応に職員は柔らかな対応をし、ホームへの来所を歓迎している。建物周囲は圧迫感や、中の様子が見えない塀にせず、竹組みの垣にして、ご利用者様にも外の景色が見やすい工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは食堂とリビングを完全に離別させている。食事と活動の場を区別することで家庭らしさや生活にメリハリを感じていただきたいと願っている。その他、トイレや浴室も、リビングや食堂から入り口が直接見えるものではなく、プライバシーが保て、ゆっくり生活していただけるようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は、リビングが床スペースと畳スペースがあるため、思い思いの場所でくつろいでいただける。時にはご利用者同士が口論となることがあり、同じスペースにいるのではなく、どちらかのかたがソファからこたつへ移動するなどしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室は入居時に、ご本人が使い慣れているなじみのものを持ってきていただけるようにご家族に依頼している。ご利用者やご家族は、タンスやカーペット、布団、カレンダーなどお好きなものをお持ちになっている。職員は、遠方のご家族から届いたはがきや、誕生日の色紙など、記念の品をご本人に喜んでいただけるように飾る支援をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は時間を決めて必ず行っている。また、気温の大きな変化がご利用者に及ぼす影響を知り、冷暖房の強さに注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者になるべく自力での生活が可能となるように、トイレと脱衣室、床から畳スペースへの上がりかまちに必要と判断して手すりを設置した。この補修で、入浴の脱衣の時、ご自分で立ち上がる方が不安なく立ち上がれるようになったと、活用できている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示を作っている。自動電気のスイッチを切らないよう、カバーを作ったり、排水溝での排泄予防にカバーをしたり、居室入り口にご本人の写真をはったり、その都度職員間で相談して、分かりやすい環境になるように取り組んでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム敷地にしあわせ広場を作り、自由に散歩ができるように整地している。今年の夏に完成し、ご家族と花火見物をしたり、秋には広場でお茶を飲んだりと楽しみの場となっている。暖かい季節は、朝晩ご利用者が庭木の水遣りをしてくださっている。日常的に、布団干しも自由に行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・いこいの家は、株式会社主体の単独型ホームである。そのため、盛大な行事がない、体調悪化時に併設の入院施設がない等、ご利用者様にとって不利益な点がある。そのことを挽回すべくいこいの家は、ご利用者様本位の支援に取り組んでいる。入居後も今までのかかりつけ医を推奨して、おおむね月1度の受診でも、なじみの医師・待合で会う友人・知人とのそれまでの関係を断たないよう配慮しており、受診を楽しみになさっているご利用者様も多い。また、少人数の職員が交替で支援させていただくことで、ご利用者様と職員双方が親しみをもち、ご利用者様が我が家できつろいで過ごすあたりまえの日常生活の場となっている。外泊日数を制限せず、ご家族と過ごす時間を大切に、自宅への送迎をしている。また、職員皆、ご利用者様が望まれていることの支援を重要視している。今日まで、入院中のご家族へのお見舞いや、車で往復2時間かかる自宅への同行、美容室への同行など行ってきた。今後もご利用者様おひとりおひとりが望むことの支援を行いたい。

・前年はしあわせ広場工事のため、畑を使用できなかった。ホームにはこの地域で畑をなさったご利用者様が多い。今年は、ホーム自慢の畑や広場を活用した野菜や花作りをご利用者様と共に楽しみたい。